

# 生徒感想文 充実の6日間!!国境を越えた 出会いと経験 それぞれが感じた 想いを活かすため仲間への情報共有を誓う

【斎藤 ましろ（1年 さいたま市立大谷場中学校出身） ～国際類型グローバルコース～】

私は1月10日から1月15日までの4泊6日カンボジア研修旅行に参加しました。カンボジアに行くのは、この研修旅行が初めてでした。カンボジアに行く前にインターネットや本などで調べました。しかし、実際に行ってみると調べた事とは感じるものが違いました。

カンボジアの小中学校や高校訪問をしましたが、みんな勉強熱心で英語をとて話せていたので驚きました。また孤児院を訪問したときに、6歳の女の子が英語で施設の説明をしてくれました。カンボジアは勉強に対する気持ちが日本と違っていました。日本は勉強できることが当たり前になっていますが、カンボジアは貧しくて学校に行けない子どもがたくさんいました。私の今の環境は、当たり前ではないと実感し、もっと何事にも熱心に取り組もうと思いました。

研修旅行は浦学の代表として参加したため、私が感じた日本との「教育の違い」を含め、色々なことを伝えていきたいと思います。そして、相手に何か感じとってもらえたら嬉しいです。

【中部 有佑子（1年 富士見市立勝瀬中学校出身） ～特進類型サイエンスコース～】

最初私は、アジア最貧国と言われているカンボジアは、食がどうなのか、人は苦しんでいるのか、不安なことだらけでした。しかし、どこに行っても手を振ってくれたり歌で歓迎してくれたり、そこで私は人の温かさを学びました。職業訓練センターや建設中の病院を見て、経済発展をしているなと感じました。その一方で、湖上で貧しく暮らしていたり、路上で通行人に必死でものを言っている（売っている）子どもたちもいました。神成さん（本学園の会長理事）が私たちに話してくれた通り、昔の時代より他国などの支援があれば国の発展は早いと思いました。私は、世界で助けを必要とする人たちの声や姿を、世界中の人に届けられるメディアの仕事がしたいと思います。

今回訪れた場所のあちこちに『浦和学院』の文字がありました。私は今まで、浦学が世界の人の役に立っていると思わず、この学校に入れたことを誇りに思いました。そして、一緒に研修旅行へ行った人たちがそれぞれに感じ、考えたことを話し合い、浦学生に伝えていきたいと思います。

【近藤 愛美（1年 草加市立川柳中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

私はこのカンボジア研修旅行で、日本人とカンボジアの人の考え方の差に気づくことができました。

6日間で、小中学校や高校、孤児院他、様々な場所に行きましたが、そのすべてで人々の温かさを感じることができました。どの場所も決して環境が整っているとは言えませんでした。どこの人々も1日1日を全力で生きていて、とても楽しそうでした。それは、自分優先ではなく、誰かのために、という意識が高いからだと感じました。日本では自分の将来のために勉強しようとする人が多いと思います。実際、私もそうでした。しかし、カンボジアの人々の当たり前の日常を自分の目で見て、感じたことで価値観が変わりました。自分のためではなく、誰かのために必死に全力で行動したい、そう思うようになりました。これは、実際に現地を訪れ、体験したからこそ思えたことです。

この思いを、浦学ふぁみり～の皆さんの心に届くよう、全力で伝えていきたいと思います。

【渡部 ねね（1年 さいたま市立城北中学校出身） ～進学類型文理進学コース～】

今回の研修旅行では、いろいろな体験をしました。それにより、カンボジアの印象が少し変わりました。

小中学校や高校の訪問では、生徒たちが暗い教室で机や椅子が十分でない中しっかりと勉強していました。これらのことから自分が恵まれている環境にいることを感じました。山本日本語学校では、生徒の方が学校案内をしてくださいました。自分の日本語に自信を持ってしっかりと話していました。私とペアを組んだ方は、日本の会社で働いていたそうです。孤児院では6歳の女の子が、私に流暢な英語で話しかけてくれました。カンボジアの公用語はクメール語のはずなのに、すごく驚きました。

このことから、カンボジアで私は、勉強量の差や学力の差（英語）に気がつきました。カンボジアの学生たちは、学校に通い、勉強できることをありがたく思っているようでした。また、今まで当たり前だと思っていた学校や授業、これからは、1つひとつに感謝し、しっかり自分の力にしなければならぬと感じました。



【菊池 優樹（1年 新座市立第二中学校出身）

～進学類型総合進学コース～】

カンボジア研修を通して、「感謝」することの大切さを学びました。カンボジアの人たちは今、誰もが裕福に暮らしているわけではなく、お金を持っている人や持っていない人の差が激しい中で、「日頃感謝している事は何か」と言う疑問が湧きました。実際に質問したところ、日本語学校の生徒は「内戦が終わり、今こうして自由に暮らしていることが出来ることです。」と目をキラキラさせて嬉しそうに語ってくれました。シン・ナムさん（カンボジア国会議員）にも同じ質問をしたところ、「人の考えは様々であるが、1番は親のおかげで、親の支えがあったから今国会議員になることができた。感謝する事はとても大事なことである。」と答えてくれました。僕も今、親の働いたお金で学校に行かせてもらっていることが1番感謝していることなので、すごく共感できる場所がありました。これらの学んだ事は、これからの学校生活、今後の人生に役立てていきたいです。日頃より、感謝する気持ちを忘れずに過ごしたいと思いました。

【宮沢 匠（2年 吉川市立中央中学校出身） ～特進類型サイエンスコース～】

今回の研修旅行は、6日間と言う短い時間でしたが、たくさん学ぶことができました。日本がどれだけ裕福な国だと感じるとともに、カンボジアと言う国について学ぶことができました。カンボジアには驚くべきことがたくさんありました。その一方で、我々日本人は見習わなければいけないことも見つけることができました。行く前と後では、日々の生活のありがたさの捉え方も変わりました。

この研修旅行のメンバー10人は、学年もクラスも違うため話す機会がなかったかもしれません。しかし、一人ひとりが違う能力や価値観を持っているからこそ、この旅行を無事に終えることができたのだと思います。そして、まだ終わった訳ではありません。これから在校生へ伝える仕事があります。難しいことではありますが、自分が感じ考えたカンボジアを伝えることができるように努めたいと思います。10代と言う若い時期に、このような経験ができ、一生忘れることができない思い出となりました。

【井澤 峻（2年 鶴ヶ島市立富士見中学校出身） ～進学類型文理進学コース～】

今回私が目標に掲げたものはたくさんあります。日本との違いは何か、現地の人の思い、自分の英語力が通用するのか、ライフスキルが向上する発見はあるのかなど、さまざまな疑問や気になるものがありました。

まず初めに感じたのは、人の温かさです。高校や孤児院に訪問した際、笑顔で歓迎してくれたり、とても勉強熱心で私たちから良いところを吸収しようとして聞き入るなど、日本との勉学に対する意識の違いも感じることができました。もっと何をしてほしい、我々にとっては普通のものなのに不足しているものが多々ありました。水上で暮らしているもの、地上で暮らす人々の知恵や将来への希望、伝統を守り抜く大切さ、いろいろなものが私のライフスキルを向上させてくれました。

日本に住む私たちが何をできるか、確実に分かった研修だと思います。そのためには沢山の在校生に共有し、また浦学全体で協力し何かできることがあると感じた研修だったと思います。

【梶原 知華

（2年 さいたま市立田島中学校出身）

～進学類型文理進学コース～】

私は、今回このカンボジア研修旅行に行けたことに、とても嬉しい気持ちと感謝の気持ちがあります。

なぜなら、カンボジアに対する思いやイメージが、行く前と実際に行ってみて、感じた今では全然異なり、本当のカンボジアという国を知ることができ、世界（自分の視野）が広がったと思っていますからです。

カンボジアの良さや日本との違いは、まず環境です。環境は、教室に電気がないことや多くの方が自分のお店をやっていること、水の上で生活していること、また、1番強く心に残ったことは、小さな子どもが親の仕事を手伝っている事でした。

次に、人々の優しさです。皆さんとても温かく、笑顔で陽気な方々で、感動したことや心に残ることが多くありました。また、クメール語という新しい言語にも触れることができ、少し使う（話す）ことができ、とても良い経験となりました。

これらの経験を、今後の生活へ活かしていきたいと思っています。



【成井優輝（3年 川口市立鳩ヶ谷中学校出身） ～国際類型グローバルコース～】

私はこのカンボジア研修旅行に行き、自分たちがいかに恵まれた環境にいるかを知りました。

この研修で、私は現地の学校に行きました。そこで、学校の設備や環境に驚きました。校舎には電灯がなく、クーラーなどはもちろんない状況でした。しかし、そんな環境でも、生徒はとても勉強熱心でした。勉強に対する意識は自分よりカンボジアの生徒の方が上だと感じました。

2日目に、現地の高校へ視察に行きました。そこで私たち生徒と現地の高校生が質問し合う時間があり、私は「私たちはカンボジアの人にどんな支援ができるか」と聞きました。帰ってきた答えは「勉強を教えてほしいことと実験道具が欲しい」との事でした。私は学校の設備や道具が欲しいなんて、今までに考えたこともなかったです。

この研修を経て、私たちがいる環境がいかに恵まれているのかと実感し、それを身近な人に伝えたいと思いました。

【中川侑海（3年 越谷市立東中学校出身） ～国際類型グローバルコース～】

今回の研修旅行として、私はカンボジアと言う国で自分自身をしっかりと主張しようとする若者たちの力強さを感じることができました。その中でも印象に残っているのは、日本語教育センターの訪問でした。私がパートナーを組んだ女性は、大学に進学するお金がなく学費が無料のほうに通いながら家の仕事も手伝っている方で「将来は日本で働きたい」と日本語で一生涯懸命伝えてくれました。自分の意思や夢を相手の言語で伝えようと言う気持ちに大きな尊敬を抱くと同時に、流暢に話すということよりも、自分の考えを主張できる勇気を持つことが重要なことだと再確認しました。様々な言語に興味を持ち、勉強したいと考えている浦学生はたくさんいると思います。だからこそ私は、このことを生徒全員と共有したいと思いました。国や環境が違って、これから先、必要とされる力は同じだということ。私たち浦学生も彼らのように、相手に胸を張って伝えられる自分を持つことで、この先世界で活躍できる人材になれるのではないかと思います。



国際教養の浦学

**生徒自身が「感じ・考え・行動する」習慣を高め**

大きな刺激と影響を与えてくれた海外研修  
今後の学校生活や人生へと活かし更なる成長に期待!!